

であることがわかった。そのため両種はアマギザサ節のイブキザサ *S. Tsuboiana* Makino のシノニムに移すことにした。イブキザサは石鎚山をはじめ四国の諸所にも多く、また三重県では上野市のほか、御在所岳にも産し、太平洋型気候区のササである。

11) ハコネダケ *Pleioblastus vaginatus* (Hackel) Nakai は神奈川県箱根から報告されたネザサ類の 1 種で、それはアズマネザサ *P. Chino* (Franch. et Savat.) Makino の葉が小さく、かつ狭い一型である。箱根およびその近辺にはとくに多く、またそのほかの関東地方や東北地方にも少なくない。アズマネザサとハコネダケは多くの中間型で連続していて、両者の間に線を引くことはほとんど不可能である。そのためハコネダケをアズマネザサに統合した方がよいと考える。

□国際シダ学連合 (編): **IAP Pteridophyte Bibliography 1982/83** 52 pp. 1985. British Museum (Natural History), London. £1.50 (US\$3.50). International Association of Pteridologists が雑誌・単行本を問わず全世界のシダ学に関する論文を集録したもので、上の 2 年間の情報を捜すのに便利である。内容は分類や細胞学だけでなくシダ学の全般にわたっていて、成分やその生理作用に及ぶ論文まで含んでいるが、小地域のフロラのようなものは抜いてある。著者名の A B C 順の配列で 783 項目、項目ごとに年号、表題、発表誌名、ページなどが載っていて、コメントなどは付いてない。次回は 1984/85 が出る予定になっている。(伊藤 洋)

□Panday, Krishnakumar: **Fodder trees and tree fodder in Nepal** 107 pp. 1982. Sahayogi Prakasan, Tripureshwar, Kathmandu, Nepal. ネパールの自然破壊の原因は自然的条件や人口問題が根本原因ではあるが、その直接原因は耕作や飼育動物の放牧とその飼料採取による裸地化にあることは、誰もが指摘するところである。本書は永年ヒマラヤの農村改善に取り組んでいる Swiss Development Cooperation と Swiss Federal Institute of Forestry Research の研修を受けた著者の研究成果で、植物や農村景観の美しいカラー印刷はスイスでなされている。内容はまずネパールにおける現状をのべ、浸食による被害にもかかわらず飼料の需要のまに植生破壊が進行し、植林の試みはなかなか成功しないことをのべる。ついで主要な飼料植物の記述とその含有成分について、分析結果に基づいた記述がある。最後に飼料植物の増殖について種々の考察がおこなわれ、さらに有用な飼料植物の調査研究についても言及されている。これらの記述は統計や分析による数字の根拠に立ってなされている。われわれも発展途上国での調査に、純学術の上にこういう観点も加えることができれば、一層歓迎されることだろう。普通種の *Leucoscepttrum canum* が学名不明とされているのはちょっとまずかった。(金井弘夫)